

令和8年9月1日

第267号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
<https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



【写真】森が育む「筏場のわさび田」(伊豆森林管理署)

- | | | | |
|----------------------|-------------------------|-----|---|
| ◎ 帰還困難区域の森林整備再開に向けて | 福島森林再生センター | ・・・ | 1 |
| ◎ スマート林業現地検討会の開催について | 資源活用課 | ・・・ | 3 |
| ◎ 森林管理署等からの便り | 塩那森林管理署、下越森林管理署 | ・・・ | 5 |
| ◎ 森づくり最前線！ | 村上支署 塩野町森林事務所 主事 佐久間 柚一 | ・・・ | 7 |

特集 1

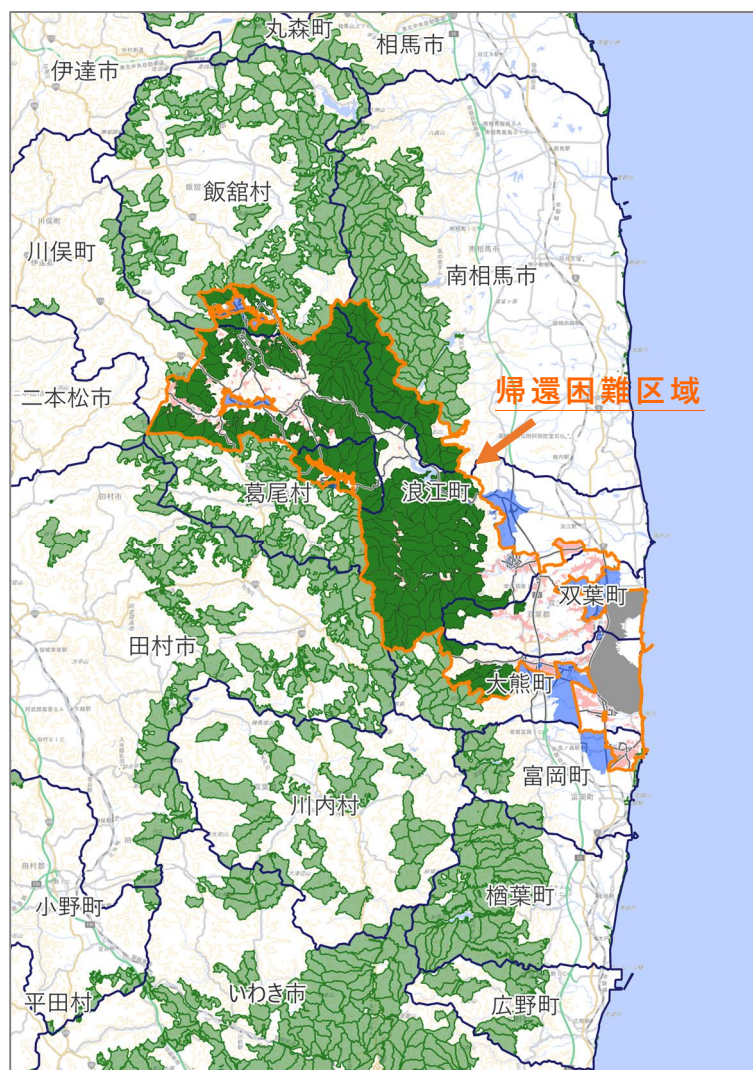
帰還困難区域の森林整備再開に向けて 関東森林管理局 福島森林再生センター

はじめに

平成23年（2011年）に東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生してから15年が経過しました。帰還困難区域では、長期間にわたり森林整備が実施できない状況が続いていましたが、令和7年6月に改定された、政府が定める『第2期復興・創生期間』以降における東日本大震災からの復興の基本方針において、帰還困難区域における森林整備の再開に向けた条件整備を進め、森林・林業の再生に一層取り組むこととされました。

こうした新たな取組や令和8年度からの「第3期復興・創生期間」への移行を踏まえ、関東森林管理局では、令和8年（2026年）4月1日付けで「森林放射性物質汚染対策センター」を「福島森林再生センター」に改称し、その拠点として磐城森林管理署内に事務所を設置しました。

令和8年5月11日には、福島県浪江町において、関東森林管理局主催による「原子力災害被災地の森林・林業再生に向けた意見交換会」を開催しました。地域の関係者の皆様から帰還困難区域における今後の国有林の取組等について貴重なご意見を伺い、森林整備の再開に向けた新たな一歩を踏み出しました。



帰還困難区域位置図

帰還困難区域：約 34,000ha

うち 森林面積：約 25,000ha

（国有林：約 17,000ha）

凡例

- 帰還困難区域
- 行政区境界
- 国有林 帰還困難区域
- 国有林 その他
- 特定帰還居住区域
- 特定再生復興拠点区域



浪江町(防災センター)での意見交換会の様子

出席者：南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村、川内村
林業事業体等、福島県、林野庁、関東森林管理局

福島森林再生センターの役割・業務

当センターでは、関東森林管理局及び磐城森林管理署と緊密に連携し、帰還困難区域の国有林における森林整備の再開を通じ、原子力災害被災地域における森林・林業の再生に向けて取り組んでいます。主な業務については、以下のとおりです。

① 森林整備再開に向けた実証事業

令和7年度に、浪江町の帰還困難区域内にある国有林において、間伐等の実証事業を実施しました（0.72ha=6箇所×0.12ha）。今年度は、事業規模を約10haに拡大するとともに、搬出間伐や木材利用にかかる取組も実施します。

② 環境放射線モニタリング調査事業

平成26年度から避難指示解除区域の国有林において空間線量率等の調査を継続的に実施しています。令和7年度からは、調査対象に帰還困難区域を追加しており、今年度も継続して実施します。

③ 成果報告会の開催

森林作業・木材利用者の皆様と関係者に向けて、帰還困難域における森林整備や同区域内で伐採された木材の安全・安心にかかる情報発信の場として、成果報告会を開催します（令和9年1月下旬から2月上旬を予定）。

④ 関係者との連携体制の構築

帰還困難区域の国有林における森林整備の再開に向けた取組等を推進するためには、地域の関係者の皆様との連携が不可欠です。このため、地元市町村や福島県との連携の場を新たに設けます。また、林業事業体や木材利用関係者へのヒアリングを実施します。



実証事業（丸太筋工）



空間線量率調査



令和7年度成果報告

福島森林再生連絡協議会(第1回) 令和8年7月29日

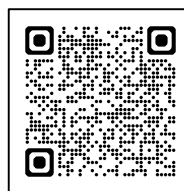
地元市町村の職員（南相馬市、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村）と国有林の担当者が継続的に情報共有し、意見交換する場として「福島森林再生連絡協議会」を設置しました。本協議会では、今後の帰還困難区域における国有林の森林整備について、地元要望を把握するとともに、民有林を含めた森林整備の進捗状況について、情報共有を図ることとしています。



協議会の様子

おわりに

この4月からは、第3期復興・創生期間がスタートしています。避難者の帰還や生活環境の整備等、これまで以上に進んだ取組が必要となる極めて重要な期間となっています。福島森林再生センターでは、職員一丸となって、地域の皆様のご要望に真摯に耳を傾け、関係機関や林業事業体等と力をあわせて帰還困難区域の森林・林業の再生に向けて全力で取り組んでまいります。



福島森林再生
センターHP

東日本大震災の発生から15年が経過し、林野庁においても「福島県森林・林業再生に向けた森林作業ガイドライン」（令和8年（2026年）1月）が策定されるなど、帰還困難区域における森林整備の再開に向けた取組が始まっているところです。

また、福島県相双地域^{そうそう}においては、林業労働力の確保が厳しい状況となっており、今後、帰還困難区域における森林整備を推進するためには、作業の省人化、軽労化、安全性の向上及び被ばく量の低減を図っていく必要があります。

このためには、スマート林業技術等を活用した森林整備に取り組むことが重要であり、相双地域における国有林では、こうした技術を積極的に取り入れていくことを検討しています。

このたび、これらの実現を目指し、遠隔操作伐倒機械等を現地で試験的に稼働させ、その適用可能性を確認していただくため、林野庁主催による現地検討会が開催されましたので、概要をご紹介します。



帰還困難区域における森林整備の本格実施に向けたスマート林業現地検討会

日時：令和8年7月7日(火) 10時～12時

場所：磐城森林管理署管内

福島県双葉郡川内村 平伏外2 国有林

参加者：林業関係者や地元自治体職員等 計75名

1 遠隔操作伐倒機械による立木の伐倒と木寄せ作業の実演

遠隔操作伐倒機械とは、遠隔操作により立木の伐倒から木寄せまで実施できる無人の林業機械のことです。オペレータは、当該伐倒機械に取り付けてあるカメラの画像を専用のメガネで確認しながら、コントローラーによる遠隔操作で伐倒と木寄せ作業を行います。これまでのチェーンソーによる人力伐倒と比べ、省人化や安全性の向上が図られるほか、造材作業のため待機しているプロセッサのキャビン内から操作すること等により、被ばく線量の低減が期待できます。



松本システムエンジニアリング(株)
シン・ラプトルII

2 ICTハーベスタによる立木の伐倒・造材の実演

ICTハーベスタとは、価格表や需要者のニーズを入力することで、売上が最大になるような採材を自動決定するシステムが搭載されたハーベスタのことです。

ICTハーベスタでは、業務経験が少ないオペレータであっても適切に採材できるほか、ロングリーチ化することで、従来機よりも広い範囲での伐倒が可能となり、作業の軽労化が期待できます。

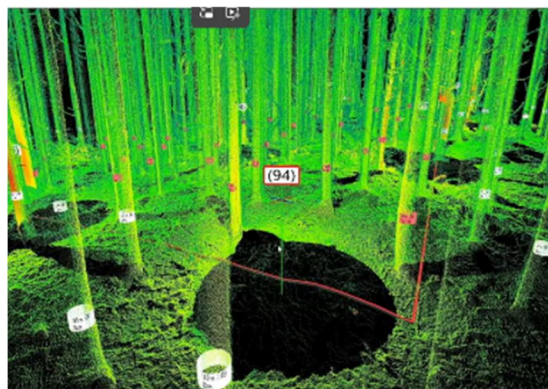


日立建機日本(株) ICTハーベスタ
(Waratah社製) + ロングリーチ

3 地上型3Dレーザ計測による立木調査の実演

地上型3Dレーザは、レーザを照射し、立木等からの反射データを解析することで、立木等の形状などを3次元データとして取得できる機械のことです。

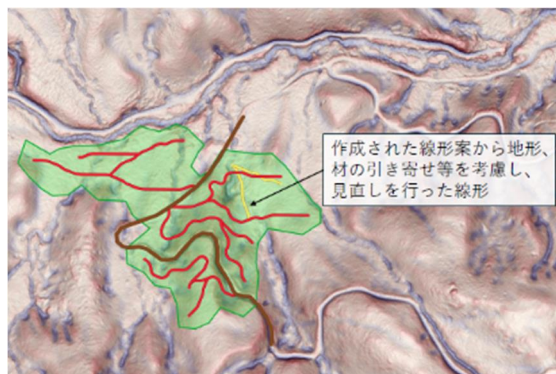
国有林野事業では、伐採等を行う前に、その区域にどのような樹種がどれくらいの数量あるのか、立木調査を実施し把握していますが、この地上型3Dレーザを調査に活用し、省人化を図ることで、調査員の被ばく線量の低減が期待できます。



地上型3Dレーザによる森林のスキャン画像

4 路網設計支援ソフトの解説

路網設計支援ソフトは、DEM（数値標高モデル）を用いて森林作業道などの設計を支援するソフトのことです。始点と終点を指定することで、設定されたパラメータに基づき、自動で線形を作成することができます。また、CS 立体図や陰影図などの図面も作成することができます。このソフトを活用し、路網設計に係る現地での検討時間を短縮することで、調査員の被ばく線量の低減が期待できます。



路網設計支援ソフトによる森林作業道の設計

帰還困難区域における森林整備の再開については、その取組が始まったばかりです。今回の検討会では、先進的な林業機械やデジタル技術の活用が、省人化や安全性の向上、被ばく線量の低減等につながる可能性を確認することができました。今後は、現地での知見を蓄積しながら、技術の導入・活用を進め、帰還困難区域における本格的な森林整備に向けて取り組んでまいります。

今月の“表紙” 森が育む「^{いかだば}筏場のわさび田」（伊豆森林管理署）

^{いかだば}筏場国有林（静岡県伊豆市）に入るとすぐに、「^{たためし}筏場のわさび田」が目の前に広がります。約15haの敷地には、世界農業遺産に認定された^{たためし}畳石式のわさび田が整然と連なり、清らかな湧水と伝統農法が生み出す絶景スポットとなっています。天城山系は年間降水量が約4,000mmに達する日本有数の多雨地帯です。豊かな雨水は森林に蓄えられ、わさび栽培に欠かせない良質な湧水となっており、大見川へ注いでいます。国有林は、この源流部に位置し、良質な水を育む水源地として重要な役割を担っています。

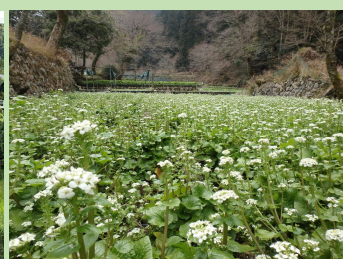
森林内の沢を利用して営まれるわさび栽培は、森林環境と密接に結びついています。このため、わさび農家の皆さんとは、旧天城営林署の時代から深い関わりがあり、現在も、毎年意見交換会を開催し、台風被害への対応や獣害対策（くくり罠の貸出等）、防犯対策などについて、意見を交わしています。これからも貴重な自然環境と文化的景観を次世代へ継承するため、地域の皆さんと連携して取り組んでまいります。



筏場国有林に入っすぐ



一級河川大見川の清流



わさびの花



採れたてのわさび

地域発



森林管理署等からの便り

～森林管理署等における現場の取組をご紹介します～

地元小学生による那須街道アカマツの種まきを行いました！

■ 塩那森林管理署（令和8年5月13日 in 那須町立高久小学校）

那須街道アカマツ林は、栃木県那須町の県道17号沿いに広がっており、樹齢100年を超える巨木を含む多くのアカマツが生育しています。林内には「森林浴一万歩!?'の森」として総延長約5.8km歩道が整備されており、森林浴を行いながら、初夏にはアジサイやヤマユリを楽しめる、日光国立公園に指定された景勝地となっています。

しかし、近年は、松くい虫被害の拡大によりアカマツが減少しており、塩那森林管理署では那須町立高久小学校とともに、郷土の貴重なアカマツ林を守り育て、郷土愛を育むため、平成6年度から「那須街道アカマツ林再生プロジェクト」を実施しています。このプロジェクトでは、児童たちが自ら採取したアカマツの種子を小学校で3年間育てた後に、那須街道に植樹しています。

令和8年5月13日には、高久小学校の小学校4年生と5年生が参加し、当署職員の指導のもと、昨年秋に那須街道アカマツ林のマツボックリから取り出した種子をコンテナポット（植物栽培容器）にまく作業を行いました。

種まきに参加した児童からは「黒くて固い種と割れやすい白い種があって、黒い種をまくというのを初めて知った。」「これから大切に育てたい。」といった感想が聞かれ、那須街道のアカマツ林保全を自分たちも担っていくという思いが育まれていることを強く感じました。

当署では、今後も貴重なアカマツを松くい虫の被害から守るため、地上散布や樹幹注入などの防除対策を実施するとともに、地元小学校やボランティア団体等と連携しながら、那須街道アカマツ林の保全活動に取り組んでまいります。



初夏の「森林浴一万歩!?'の森」
（アカマツ林と満開のヤマユリ）



高久小学校における種まきの様子

那須街道赤松林

パンフレット リンク▶▶▶

遊歩道のコース図面も

掲載されています！



市町村林務職員を対象とした「ドローン操作体験会」を開催！ ■ 下越森林管理署（令和8年7月21日）

下越森林管理署では、令和8年7月21日（火）に市町村の林務担当者を対象とした「ドローン操作体験会」を開催しました。



座学の様子



参加者によるドローン操作体験

本体験会は、令和8年4月に開催した「新潟地域 民国連携関係者打合せ会議」において、市町村から寄せられた要望を受けて企画したもので、当署職員向けの講習会にご参加いただく形で実施しました。

当日は、管内の市町から5名の方にご参加いただきました。午前中は署会議室にてドローンの飛行ルールや安全管理に関する講義のほか、機体の組立て方などを学びました。午後からは阿賀野市内の国有林へ移動し、実際にドローンを飛行させる操縦体験を行いました。参加者の中には、初めてドローンを操縦する方もいましたが、森林管理業務における活用をイメージしながら熱心に取り組んでいました。

参加者からは、災害後の現地確認、林道等の被災箇所の撮影、町有林の林況確認、森林管理制度に係る現地確認、松くい虫被害調査など様々な業務へ活用できそうだというご感想が寄せられました。

下越森林管理署ではこれからも関係機関との連携を図りながら、要望に応じた市町村林務担当者の支援を継続していきます。

GREEN×EXPO 2027 ～幸せを創る明日の風景～

2027年3月19日（金）から9月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶▶ <https://expo2027yokohama.or.jp>

HPリンク▶▶

チケットサイトはこちら ▶▶ <https://ticket.expo2027yokohama.or.jp/>



メインガーデンイメージ（2026年3月現在）

画像提供：GREEN×EXPO 協会



©Expo 2027

連載
シリーズ

森づくり最前線！

村上支署 塩野町森林事務所 主事 佐久間 柚一

私の勤務している塩野町森林事務所は東部を山形県の庄内地方に接し、関東森林管理局管内で最北端に位置する森林事務所として、約 7,000ha を管轄しています。

管内には、日本の滝百選に選ばれた「鈴ヶ滝」や、かつて日本の金産出量の 3 分の 1 を占めた「鳴海金山」など、自然や歴史を感じられる観光名所や遺構があります。しかしながら、令和 4 年 8 月に新潟県北地域に甚大な被害をもたらした豪雨により、これらの名所へ至る幹線林道なども大きな被害を受け、現在は復旧工事中のため、アクセスが制限されています。



鈴ヶ滝

また、管内には、新潟 100 名山に選定された山が 4 座あります（日本国、天蓋山、吉祥嶽、新保岳）。こうした豊かな山々に囲まれて業務を行う中で、私自身も管内の把握と体づくりを兼ねて登山を始めました。山頂からは朝日連峰や飯豊連峰の雄大な姿や、栗島の浮かぶ日本海、村上市の鮭文化を築いた三面川といった多様な自然を望むことができ、心身のリフレッシュにつながっています。



ドローン进行操作する筆者



ドローンによる境界巡視

上空からの
天蓋山の紅葉

森林事務所の業務は、民有林との境界管理（巡視距離 172km など）や造林請負事業の現場監督（R8 事業量：13.98ha）、不法投棄パトロール、林道整備、貸付地管理など多岐にわたります。当事務所では、業務へのドローンの活用を力を入れており、昨年度の境界巡視では、約 18km にわたってドローンによる遠望撮影を実施しました。

巡視時期が紅葉の見頃と重なったこともあって、上空からはとても美しい景色を撮影することができ、思いがけず国有林の魅力を再発見する機会となりました。ドローンによる撮影は、現地状況の把握や経年変化の記録に役立つだけでなく、国有林の魅力を発信するための有効なツールであると感じました。

私は新規採用で塩野町森林事務所勤務となり、今年が 2 年目です。まだまだ経験が浅く、周りの職員の皆さんに助けをいただきながら日々の業務に取り組んでいます。今後も一つ一つの業務に誠実に向き合い、美しい国有林を未来へ引き継いでいけるよう、適切な森林の整備・管理に努めてまいります。